

科目名 臨床看護総論（１） 救急他	授業担当者 伊藤 綾華	所属 中通総合病院	
開講時期 : 中期	単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間(救急他 18 時間)	
授業の目的 1. 看護の活動の場および機会について理解する。 2. 健康上のニーズや健康上の経過(健康レベル)に応じた看護について理解する。 3. 救急蘇生法について理解する。			
授業の概要 看護活動の場および機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむところから始める。看護の基本として、多様な健康上のニーズを持つあらゆる健康レベルにある人々に、基本的な看護の知識や技術を統合し応用するプロセスを学ぶ。健康上のニーズについて、自分や家族にあてはめて理解を深める。また、各健康レベルの特徴と急性期・回復期・慢性期にある対象の看護について、事例を通して学ぶ。 一次救命処置の技術習得を目指し、演習・技術試験を行う。			
受講上の注意・事前学習の内容 以下の 5 つの目標をもとに進める。技術試験にむけて授業の予習・復習をして臨んでほしい。演習においては身だしなみを整え臨むこと。 目標1. 看護活動の場、チーム医療の機会を学ぶことで、臨床看護のイメージをつかむ。 目標2. 健康上のニーズに応じた看護の役割がわかる。 目標3. 各健康レベルの特徴と看護の役割がわかる。 目標4. 治療の種類と方法、それぞれの治療における看護の要点がわかる。 目標5. 一次救命処置の方法がわかり、シミュレータに実施できる。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	看護活動の領域と場 健康上のニーズをもつ対象の看護	講義	
2・3・4	健康状態の経過(健康レベル)と看護	講義	
5	治療の種類・方法と看護	講義	
6	救急蘇生法	講義	
7・8	一次救命処置	演習・技術試験	
9	一次救命処置の実際	シミュレーション演習	
	試験		
テキスト 系統別看護講座 専門 臨床看護総論 医学書院 系統別看護講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院			
参考書・指定図書 なし(授業内で紹介する)			
評価の方法 臨床看護総論 100 点満点中の 55 点。筆記試験(45 点)、一次救命処置技術試験(10 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床看護総論（2） 終末期看護	授業担当者 北林 奈美子	所属 中通総合病院 緩和ケアチーム 相談支援センター	
開講時期 : 中期～後期	単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間(終末期看護 8 時間)	
授業の目的 終末期にある患者と家族の特徴と終末期看護の役割を習得する			
授業の概要 私たち医療者は終末期にある患者と家族が抱える様々な苦悩に寄り添い、和らぐように支援することが求められている。この講義では終末期患者と家族の抱える苦悩や尊厳ある死を迎えることの大切さ、看護師に必要な知識や援助技術について学びを深めてもらいたい。また、これまで関わった事例を紹介し、終末期看護のイメージを持つこと、終末期における看護師の役割を習得し、看護学生の死生観が培われるように授業を進める。			
受講上の注意・事前学習の内容 授業に臨む姿勢(居眠り、授業と関連がない行動などが認められた場合は評価に反映)は心掛けること 講義資料は事前に印刷し、準備すること			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	緩和ケアとは(緩和ケアの歴史と現状) 終末期患者とその家族の特徴(全人的苦痛について) 当院の緩和ケアチーム、がん相談支援センター、緩和ケア認定看護師の役割	講義	
2	身体症状のアセスメントと看護(がん性疼痛、呼吸困難)	講義	
3	緩和ケアにおけるコミュニケーション(グループワーク形式予定)	講義 グループワーク	
4	死の受容過程の理解と援助、家族ケア 臨死期のケア(エンゼルケアの目的と意義、援助技術)	講義+動画視聴	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験、授業態度および演習での取り組み状況を総合的に評価する。 (臨床看護総論 100 点満点中の 30 点)			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床看護総論 (3) 化学療法看護	授業担当者 嵯峨 千春	所属 中通総合病院 化学療法室	
開講時期 : 中期～後期	単位数 : 1 単位	時間数 : 30 時間(化学療法 4 時間)	
授業の目的 1. 化学療法の特徴・目的・副作用を理解する 2. 化学療法を受ける患者の看護援助を理解する			
授業の概要 がん患者は様々な苦痛を経験する。その中で、治療期である化学療法を受ける患者の身体的・心理的・社会的苦痛を事例を通して説明するので、理解に努め、看護援助を学んでほしい。化学療法は日進月歩で日々新しい薬剤やレジメンが開発されている。最新のトピックスを交えて化学療法の特徴や目的を講義していきたい。また、化学療法患者におけるセルフケアの重要性を理解してほしい。			
受講上の注意・事前学習の内容 検査と治療法概説の化学療法の講義を受けていれば、復習し授業に臨むこと。またテキスト内の慢性期の患者のニーズを事前に予習してください。必要時、事前に資料を印刷し準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	化学療法の特徴と目的、有害反応について	講義	
2	化学療法に伴う苦痛への看護援助	講義	
	試験		
テキスト 系統看護学講座 専門 臨床看護総論 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験 臨床看護総論 100 点中 15 点			

*この科目は実務経験のある教員による科目となります